



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2016.5

No.385

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



この時期は、ご近所であの夏鳥とばったり出会えるチャンスです

青木正俊(さいたま市)

皆さん、夏鳥たちは好きですか？

私は4月下旬から5月中旬まで夏鳥を求めて(特にオオルリやキビタキ)、各地をさまよい歩いています。主に、栃木県の日光や戦場ヶ原でこれらの小鳥たちを探しています。会えた時は嬉しいもので、時間が立つのを忘れてしまうくらい見つめてしまいます。

これらの鳥は冬はいません。その昔、リストテレスは、「ある種の鳥は冬ごもりすることによって冬の寒さを逃れる」と述べたそうです。その後もこれらの考えが信じられ、16世紀には大司教オラウス・マグヌスが、越冬中のツバメを2人の漁師が網でひいている絵を論文に掲載し、ツバメは水中で冬を過ごすという説が19世紀初頭まで信じられていました。

今では、寒い時期にいない鳥たちは秋から冬の間は南の国に渡り、春になって暖かくなると日本にやってくるにすぎない小学生でも知っています。

そうすると、海を渡り、埼玉を通過し、日光に行く夏鳥たちもたくさんいるはず。だから、『しらこぼと』5月号が届くこの時期、皆様も秋ヶ瀬公園などに、埼玉を通過して行く夏鳥たちを探しに行く方も多いのでは？もちろん、私もこの公園でオオルリ、キビタキを探しているBIRDERの一人です。

しかしこの時期は、近くの小さな公園でも、



キビタキ

または身の回りや、ご近所で、もしかしたら自宅で、渡り途中の夏鳥たちとばったり出会えることもあるのです。そんなエピソードをいくつかご紹介します。

● エピソード1：キビタキ①

ある4月の早朝、真面目なサラリーマンである私は駅まで歩いておりました。途中小さな公園の脇を歩いていると

「チョットコイチョットコイ」と囁りが!

「えっ? キビタキ? こんな公園で、まさか? でも……」

公園に突入し新緑の桜を見上げていると、シジュウカラに混じって鳴いているではないですか! 黄色とオレンジの可愛いあのキビタキが!

「やったー、キビタキ! キビタキ! キビタキ!」と時間もたつのを忘れ公園で入っておりました。

「あっ 遅刻だ」

※桜が2~3本しかない公園なのです。

● エピソード2：キビタキ②

これは昔々、子供が小学生低学年の頃です(その子供も今は大学生)。早朝子供を連れて公園で遊んでいた時に、

「お父さん、なんか木にキビタキみたいのがあるよ」

「まさか〜」

「ほら!」

「ん〜? ゲッ、キビタキだ!」

この時も時間がたつのも忘れて、子供と木から木へ移動するキビタキを追いかけ回しておりました。

● エピソード3：ホトギス

ある5月の夜、真面目な家庭人である私は家でくつろいでいると、我が家の山の神が「あっ、辛子がない。買ってきて」。「え〜、面倒くさいな」「早く〜」「ちえっ。ぶつぶつ言いな

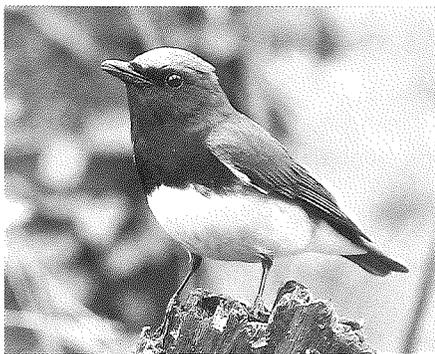
がらスーパーまで歩いていると
 「キョキヤキョク キョキヤキョク」！
 「えっ？ ホトトギス？ こんな家のそばで
 まさか？ でも」
 暗い中、目を凝らして探すというのではない
 ですか〜！ アンテナの上で鳴いているでは
 ないですか〜！
 「やったー、ホトトギス！ ホトトギス！
 ホトトギス！」
 と、やっぱりこの時も時間がたつのを忘れ、
 道端で見入っておりました。
 「あつ、辛子」、急いで買って帰ると「どこま
 で買いに行つとるんじゃ〜（怒）」

● エピソード4：コサメビタキ

私が勤務している場所は東京の京橋です。
 早朝、喫茶店のテラスでコーヒーを飲んでい
 ると街路樹（イチヨウ）でちょこちょこ小鳥
 が動いていました。
 「ん？ コゲラかな？ なんだろう。
 じーっと目を凝らして、
 「えっ？ コ・サ・メ・ビ・タ・キ？ ん？」
 「うわー、コサメビタキだ！！」
 と思わず叫んでしまい、通勤途中の人達に変
 な顔で見られウエイトレスの方まで出て来て、
 思いつ切り恥ずかしかったです。
 これは冬ですが、出張で仙台に行った時、
 街路樹にウソを見つけ、思わず大声で「ウソ
 だ〜」と叫んでしまいました。私は基本的に
 何処に行っても変わらない男のようです。

● 渡り途中の夏鳥に会うには

この時期は、普段見ることの出来ない夏鳥



オオルリ

たちにご近所で出会えるチャンスです。その
 場所に長く滞在することはありませんが、渡
 りは5月下旬ごろまで続きます。

鳥種によって少しずつ時期がずれます。住
 宅地の中の公園でも、1週間違えば違う夏鳥
 が来ているかもしれません。

渡り途中の夏鳥に出会えた時の経験をまと
 めます。

- 1, 桜などの広葉樹にいることが多いよう
 な気がします。
- 2, 時間は早朝に出会えることが多いです
 が、昼間のこともあります。ただ夕方は一度も
 ありません。
- 3, オオルリは単独でいることが多いです
 が、キビタキはシジウカラなどの混群の中
 にいることが多いです。
- 4, 日光などではオオルリは梢で囀ってい
 ますが、公園では木の間層にいることが多
 く見られます。
- 5, この時期は木々に葉が多いので囀りが頼
 りになります。囀り識別に自信の無い方は
 普段聞いた事のない声がしたら探してみる
 のも良いと思います。

探鳥会などで「さー、鳥をさがすぞ〜」と
 という意気込みで鳥をみつけた時よりも、偶然
 鳥を見つけた時の方が私は喜びが大きいです
 ね。

[編集子から]

数年前の5月初旬、出勤のため車に乗ろうとした時、
 頭上でなにかのグゼリ。見上げると白い腹と黒いのだ、
 横から見ると上面が紺色。「オオルリじゃあ」とうめき声
 で金縛り。同じところで2年続けて経験しました。止まっ
 ていた位置は、その樹木の間層（青木氏の指摘通り）
 でした。

同じ時期、住宅地のテレビアンテナに止まっているア
 オバズクを見たことがあります。

会員の皆さんにも経験があるはず。ぜひ野鳥情報に
 お寄せください。

また、この時期は山の鳥だけでなく、シギやチドリ
 の仲間も渡っています。近くの田んぼも見逃せません。

(写真：Y.E.)

2015年埼玉県内鳥見ランキング結果発表

観察鳥種数部門および探鳥会参加回数部門ともに、今村富士子さんが152種と50回でダブルのチャンピオンに輝きました。今村さんは2014年に観察種数が4位、探鳥会参加回数が3位でしたが、今回はトップに躍り出ました。2014年に観察種数でトップになった吉原早苗さんは、2015年は両部門で2位の好成績でした。前回に引き続き両部門ともに女性がチャンピオンを占め、さらに2位も女性という結果になりました。

2016年も鳥見ランキングを実施します。観察種数については年初からのデータをまずは整理していただき、年末まで記録し続けて下さい（当会HPから観察種を記録できるExcelファイルをダウンロードできるように

しましたので、ご利用ください。また、探鳥会にも積極的にご参加いただくようお願いいたします。応募方法は『しらこぼと』12月号でご案内する予定です。

2015年観察鳥種数ランキング

順位	鳥種数	氏名	住所
1	152	今村富士子	さいたま市
2	144	吉原早苗	北本市
3	141	千島康幸	小川町
4	117	榎本秀和	鴻巣市

2015年探鳥会参加回数ランキング

順位	参加回数	氏名	住所
1	50	今村富士子	さいたま市
2	43	吉原早苗	北本市
3	40	近藤龍哉	上尾市

野鳥記録委員会

ツバメが冬ねぐらで年越し

大浜サイ子さん(未入会の方)のお住まいは、秩父盆地を眼下に見渡す「美の山(みのやま)」中腹(秩父市黒谷)にある。そんな大浜さんのもとに1羽のツバメがやって来たのは、秋もだいぶ深まった2015年11月28日夕方4時ごろのこと。戸が細く開いていた縁側から飛び込んで来て、座敷の電燈の笠にとまって一夜を過ごした。そして、翌朝7時ごろ鳴きだしたので、玄関の小窓を開けてやったら飛び出していった、という。

12月16日(水)当会事務局にお電話をいただいたことから、大浜さんと連絡を取り続け、情報をまとめる役目を、記録委員会委員長の榎本が受け持つことになった。

大浜さんは、ツバメのために玄関の小窓を細く開けておくことにした。実は、ツバメの営巣の時期には、ずっと以前からそうしておくことが習慣となっている。玄関(屋内)で、50年以上前から、毎年2組のツバメが子育てをしており(もちろん世代交代や個体の入れ替わりはあるだろうが)、ツバメの出入りの妨げにならないように、という気配りだ。大浜さんは自宅で営まれるツバメの育雛を楽しみ、長年にわたり、愛情を持って見守ってきてくださった方なのである。

しかし、こんな秋おそくにツバメが舞い込んできたというのは、さすがに初めて。

そのあとは玄関の古巣でねぐらを取るようになったということだから、ここで巣立ったツバメだったのだろう。12月26日から31日の間は、6夜続けて2羽でやって来たそうだ。

年が明け、1月8日の夕方に1羽で来て一晚過ごしたのが最後となった。毎晩というわけではないものの、年末年始を通して33夜を大浜さん宅で過ごしたという。春まではいなかったのだから「越冬」とは言いにくい、このツバメの冬ねぐらと年越しを、当県内としては稀な事例として記録しておきたい。

ところで、毎年2組のツバメが子育てを続けているということは、大浜さんの話では1巣の雛が平均6羽ということで、二番子までとすると、1年で巣立つ雛はざっと24羽。三番子のできる年もあったそうだから、過去50年間に大浜さんの家を巣立った子ツバメは、単純計算で1,200羽以上となるだろう。

大浜さんのお宅には、例年3月15日ごろにはツバメが姿を見せる。大浜さんは玄関の小窓を細く開けて、この春もカップルの到着を楽しみに待っている。

(文責 榎本秀和)

蓮田市環境学習館バードウォッチング講座報告
田中幸男(蓮田市)

中島幹事をメイン講師とし、玉井幹事・赤坂リーダー及び田中が案内をしている蓮田市環境学習館バードウォッチング講座について、今回はその講座の「移動観察会」と「講座参加者状況」について報告します。

1. 移動観察会 (智光山)

月例講座以外に、年1回「移動観察会」として蓮田市のバスを利用し市外で実施しています。過去17回実施しており、募集は蓮田市の公報掲載や講座開講時に行いますが、毎回定員を超える応募がある人気の講座です。

2015年度の移動観察会は、1月9日(土)に狭山市の智光山公園において、いつもの4人に現地案内の協力をお願いした藤掛幹事、久保田リーダー2人を加えた6人の案内で、現地参加者を含め総勢36名で行われました。

当日は好天に恵まれ風もない絶好の探鳥日和で、まず公園管理事務所の黒須所長さんからご挨拶をいただき、スタートとなりました。

スタートまもなくアオゲラが出現し、エサを探す光景を全員で観察。「はじめて見た!」「アオゲラというけれど緑なんだ!」などの歓声があちこちから聞こえました。林のなかをエナガ、ヤマガラなどの小鳥たちを観察しながら釣り堀へ。ここではホシハジロ、キセキレイ、ジョウビタキが順光のもとで待っていてくれ、今度は「可愛い!」「綺麗!」の声。

緑地植物園で鳥談義をしながら少し早い昼食をすませ、ひょうたん池へ。ここでは7種のカモを観察。なかでもトモエガモやオカヨシガモは黒浜沼周辺では観察機会がないので、みなさん見入っておりました。

戻り路では、後半アカゲラにイカルが出てくれ、みなさんをまた喜ばせてくれました。

最後を飾ったのがノスリ。鳥合わせの途中に青空の中を舞ってくれ、みんなで見上げました。

鳥合わせの結果34種を確認しましたが、そのほとんどをみなさんが観察できました。そのなかには黒浜沼周辺ではなかなか会えない野鳥も含まれており、参加者のみなさんにとらためてバードウォッチングの素晴らしさを

感じていただき、喜んでもらえたのではないのでしょうか。

2. 講座参加者状況

3月5日(土)の講座で2015年度の講座を終えましたが、記録をとりはじめたここ7年の参加者状況は下表の通りです。

7年間の参加者状況 :人

	延参加者	年度平均	月平均
7年間計	2491	356	30.7

年度別	計	実施回数(回)	月平均
09年度	313	12	26.1
10年度	326	12	27.2
11年度	369	11	33.5
12年度	383	12	31.9
13年度	331	11	30.1
14年度	349	11	31.7
15年度	420	12	35

—— 神奈川県支部から招待状が届いています

潮溜まりウォッチング
横須賀市長井・新宿の磯

期日：① 6月5日(日) ② 6月7日(火)

集合：午前10時 京急・三崎口駅前

「新宿」までバスで移動します。

交通：品川・横浜から京急の券売機で三浦半島1DAY きっぷをお求め下さい。全区間のバスがフリーになります。

解散：14時頃、現地にて

みどころ：海のない奥多摩と埼玉、両支部の会員をご招待する特別企画！潮が引いた磯に出て海の宝石ともいわれるウミウシを中心に探索します。磯に潜む生きものの魅力にきっと夢中になることでしょう。休日と平日、それぞれ行きます。雨天の場合は希望者と油壺マリンパークをご一緒する予定。



参加費：無料 (入館料は別途)

申込：5月中旬に、hayasiba@jom.zaq.ne.jp までご連絡下さい。詳細をご案内します。

担当：林庭 (042-812-4081)・上玉利・黒田・唐沢・石井(大)



野鳥情報

春日部市梅田 ◇1月1日、粕壁の古利根川でヒドリガモ、カルガモ、コガモ、ユリカモメ多数。ダイサギ、コサギ（以上は毎日観察）。2日はマガモペア、上流と下流には多いがここには時々。コガモが盛んにディスプレイ。4日、毎日観察種に加え、上空を南へゴイサギ4羽通過、アオサギ、オオバン、イソシギ、ハクセキレイ、セグロセキレイ。ユリカモメは100羽＋、ダイビングを繰り返す。公園橋周辺には多い時は200羽を越える。6日早朝、珍しくモズの鳴き声。17～19日、21日、25日、大食漢のカワウが50羽以上、さすが餌捕り上手。いつもはせいぜい4～5羽。水辺にはダイサギ、コサギ、アオサギが待ち構え、上げ潮時は特に生き生きとしている（富田美邦）。

北本市北本自然観察公園 ◇1月2日、キジ♀タイプ2羽が一緒に林床で採餌。姉妹のようだ。他にコガモ♂6羽♀9羽、アオサギ1羽、カワセミ1羽、シロハラ2羽、ジョウビタキ♂2羽♀1羽、アリスイ？1羽、カケス1羽、エナガ5羽±など（長嶋宏之）。

三郷市新三郷ららシティ ◇1月2日、今年の鳥見始めて、自宅周辺を歩いて探鳥した。いつものコースから少し足を延ばして、ららシティに行くと、ナツナント、ホオジロガモ♂1羽=下写真=がいた！新興住宅街の中にある50m四方位の小さな池なのにビックリ。1月5日から水際の枯アシの刈り取りや重機による整地などで、昼間は見ら



れなくなったが、早朝には戻っており、5日ほどで工事が終わると、昼間でも毎日見られるようになった。この小さい池には合計数羽程度ながら、ヨシガモ♂♀、ホシハジロ♂なども日替わりで混じり、距離も近いので結構楽しめた。ホオジロガモ♂は、2月5日まで滞在してくれた（高田範之）。

さいたま市見沼区膝子 ◇1月5日、木にノスリが1羽とまっていたが、周りのカラスたちはほとんど無視。オオタカとは反応が違う。耕作地にハシボソガラスとミヤマガラスの約150羽の混群（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区片柳1丁目 ◇1月5日、通勤路すぐ脇の木にとまるノスリ1羽を車中より確認（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇1月5日、40分程の急ぎ足での観察。アオサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ、イソシギ、セグロカモメ、カワセミ、コゲラ、ツグミ、アカハラ、シロハラ、メジロ、アオジ、カシラダカ、ウグイス、オナガ、エナガ、ベニマシコ♂、セグロセキレイ、ハクセキレイなど。1月15日、木の茂るジクジクした湿地の奥に何やら丸っこい固まりが。プロミナーを持って来てよく見たら、ヤマシギだった。嘴を背に突っ込んで休憩中。目だけはパチクリ動かしていた（鈴木紀雄）。◇1月9日、オオタカ2羽、ブッシュより飛び出す。コガモ、カルガモ、シロハラ、カワセミ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ウグイス、アオジなど（本多己秀・久文子）。

さいたま市岩槻区馬込 ◇1月8日午前11時頃、ルリビタキ♂、背のブルーと脇の黄が美しい。カケス、ウグイス、シジュウカラ、シロハラ（本多己秀他4名）。

蓮田市黒浜 N35.9895 E139.6750 ◇1月9日、亜種オオアカハラ♂1羽（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区深作調整池 ◇1月9日、オオハクチョウ2羽、当地で初めて見た。他にオオバン6羽（本多己秀・久文子）。

川越市伊佐沼 ◇1月10日、セグロカモメ、ユリカモメ、カモメ、イカルチドリ、イソシギ、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、ハシ

ビロガモ、コサギ、アオサギ、カワウ、ハクセキレイ(本多己秀・久文字)。

蓮田市国立東埼玉病院 ◇。1月11日、ハイタカ飛翔、鋭い目がよく見えた。シロハラがあちこちにいる。カシラダカ40~50羽の群れ。アオサギ、ホオジロ、アオジ、ジョウビタキ♂、モズ、メジロ、ウグイス、シメ、ヤマガラ3羽、ビンズイ5~6羽など(本多己秀・久文字)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇1月13日、いつもは5~6羽のムクドリが100羽±の群れとなってブロッコリー畑で採餌。1月19日、残雪のある植木畑でハイタカ若鳥1羽が地上3mの小枝にとまってジッとしていた(長嶋宏之)。

吉見町八丁湖 ◇1月13日、カイツブリ、マガモ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ゴイサギ、アオサギ、ジョウビタキ、カシラダカ、メジロ、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、シロハラ、ウグイス、ミヤマガラス100羽+など(本多己秀・久文字)。

深谷市本田 ◇1月13日、白鳥飛来地に行き、対岸にいるセキレイの白化個体1羽。虹彩が黒く、真っ白でした(千島康幸)。◇1月14日昼過ぎ、白鳥飛来地の河原でセキレイ類の白化個体1羽。昨冬の純白ハクセキレイと同一の個体か? 声を聞けなかったので、セグロかハクか確認できず。イカルチドリ2羽、コチドリ3羽、イソシギ2羽、クサシギ1羽。セグロカモメ成鳥1羽が鳴きながら飛来し、着水。快晴の冬空をハイタカが旋回する。今冬もここには、ハクチョウの姿はなく、ホオジロガモ♂♀ばかりが10羽ほど(榎本秀和)。

さいたま市桜区・西区の鴨川 ◇1月16日午後、島根橋上空でノスリ2羽、4羽のハシボソガラスに追われる。橋より下流の中州でタシギ2羽、クイナ1羽。クイナはコサギに追われて、素早く走って逃げた。上流側でカルガモ26羽、オオバン8羽。イソシギとムクドリが浅瀬で水浴び。川沿いの民家の屋根の上でアオサギ、ダイサギが日向ぼっこ。他にカワセミ、ハクセキレイなど

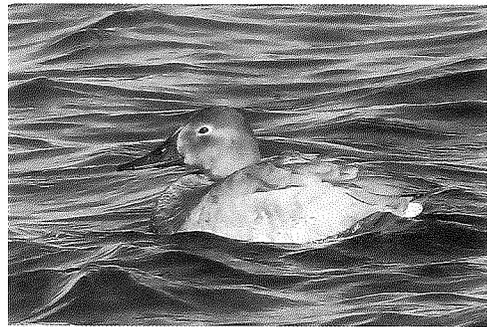
(大塚純子)。

蓮田市笹山 ◇1月16日、「ギヤー」と逃げ飛ぶアオサギを襲うハヤブサ若鳥。2回目のアタックを逃れて、アオサギはアシ原の中へ。ハヤブサはしばらく上空を舞っていたが、やがて北東へ去った。1月17日、元荒川沿いで、飛来し、木にとまるハイタカ1羽。電線にチョウゲンボウ♀。上空高くタゲリ1羽通過。ホオアカ成鳥1羽、若鳥1羽。道路脇の水路を、深い所は泳いで移動するクイナ1羽(鈴木紀雄)。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇1月16日、野鳥の会の探鳥会終了後、N36.0590 E139.6431でイソヒヨドリ1羽を確認した。羽衣からみ若鳥の様だった。1月17日、オナガガモの雄化個体1羽、トモエガモ♂1羽♀1羽、ヨシガモ♂7羽などカモ類9種。他にオオバン30羽±、亜種ダイサギ3羽、コサギ1羽、カンムリカイツブリ2羽、アオサギ1羽、カワセミ1羽など(長嶋宏之)。

本庄市の利根川河川敷 ◇1月19日、雪の降った翌日、利根川の河川敷を車で走行中、幸運にも道路脇にいるコミミズクに出会った(森田文三郎)。

さいたま市南区彩湖北端 ◇1月20日、ホシハジロ、キンクロハジロなど100羽±の群れの端の方に、オオホシハジロ♀1羽=下写真(海老原美夫)。



表紙の写真

スズメ目ウグイス科ウグイス属ウグイス

2015年5月。長野県上高地。標高が高いので、平地より2ヵ月遅れでラブソングを歌っていました。 榮 武男(春日部市)

行事案内



アササギ(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

(4月から参加費を改定しました。ご了承、ご注意をお願いします。)

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

栃木県・小倉山森林公園探鳥会

期日：5月1日(日)

集合：午前 8 時 30 分、東武日光駅前。集合後徒歩で現地へ。

交通：東武スカイツリー線 快速東武日光行 春日部 6:53 発で東武日光駅 8:25 着。または JR 日光駅 8:25 着で東武日光駅まで徒歩 7 分。

解散：昼食後に現地にて。《要弁当持参》

担当：青木、浅見(徹)、佐野、長野

見どころ：オオルリ、キビタキ、コサメビタキも見たい。初心者大歓迎の、小鳥を見るバードウォッチングです。

ご注意：前日(4/30)17時発表の、宇都宮地方気象台気象情報 0288-177 で、栃木県北部 5/1 午前中の降水確率が 60% 以上の場合は中止です(担当者も現地に行きません)。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：5月3日(火・祝)

集合：午前 9 時 15 分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線 東武動物公園駅東口から 境車庫行きバス 8:45 発で「上宇和田」下車。北方向に徒歩約 5 分。

担当：佐野、佐藤、竹山、田邊、村上

見どころ：シラコバトやムナグロ、そしてコチドリなどを期待して、江戸川まで歩きます。初心者の方も大歓迎です。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(木・祝)

集合：午前 9 時 30 分、JR 京葉線 南船橋駅前。

交通：JR 武蔵野線 武蔵浦和 8:27→南浦和 8:31→京葉線直通 南船橋 9:22 着。

担当：杉本、伊藤、手塚、野村(修)、長谷部、菱沼(一)、菱沼(洋)、渡邊

見どころ：春の渡りのシギ・チドリ類を観察します。潮の満ち始めころに、海から飛んできます。解散後も楽しめますよ。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月8日(日)

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。

担当：千島、新井、鶴飼、倉崎、田島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：土手を歩けば猛禽、河原ではカワセミ、野鳥の森では繁殖地に移動中のキビタキ、センダイムシクイなどなど。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月8日(日)

集合：午前 9 時、元荒川の川島橋左岸。

交通：JR 宇都宮線 蓮田駅東口から朝日バス 東埼玉病院行(橋場経由)8:50 発で「橋場」下車。バス停からご案内します。

担当：玉井、青木、内田、榎本(建)、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、菱沼(洋)、星野、吉安

見どころ：ツバメ、オオヨシキリなどの夏鳥

と繁殖期に入って鮮やかになった鳥達を楽しみましょう。渡りの途中の鳥達もね。
注意：今回は、元荒川の川島橋左岸から黒浜沼(環境学習館)までの片道コース。車の方は、“緑のトラスト保全第11号地 黒浜沼駐車場”利用(川島橋まで徒歩約15分)。

栃木県・日光戦場ヶ原探鳥会

期日：5月8日(日)

集合：午前9時45分、日光赤沼バス停前。
交通：東武スカイツリー線快速 東武日光行 春日部6:53発で東武日光駅8:25着。東武バス 光徳・湯元行 東武日光駅8:40発に乗車し「赤沼」(9:42ころ着)で下車。
解散：15時30分ころ、湯滝レストハウス横。
担当：入山、佐野、山田
見どころ：環境の変化に富んだ奥日光赤沼から湯滝まで夏鳥達を探しながら歩きます。
その他：①昼食と雨具を必ず持参(突然の天候変化あり)。②探鳥コースは、殆ど平坦で約5km位歩きます。③東武鉄道「まるごと日光東武フリーパス」がお得で便利。④前日(5/7)17時発表の、宇都宮地方気象台気象情報0288-177で、栃木県北部5/8午前中の降水確率が60%以上の場合は中止です(担当者も現地に行きません)。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月14日(土)

集合：午前8時40分、東武伊勢崎線 花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園管理事務所前。
交通：東武伊勢崎線 春日部8:14→久喜8:27→花崎8:34。JR宇都宮線 大宮7:53→久喜8:15で東武伊勢崎線に乗り換え。
共催：加須はなさき公園管理事務所
担当：長嶋、相原(修)、相原(友)、石川、植平、菊川、竹山、星野、茂木、渡邊
見どころ：植物園でコゲラやシジュウカラなどを、園外のアシ原でツバメやオオヨシキリなどを探します。空のヒバリも大きな声で私達を迎えてくれることでしょう。
ご注意：集合場所が変わりました。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月15日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線 北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：須崎、青木、赤堀、浅見(健)、浅見(徹)、石塚(敬)、楠見、小菅、小林(み)、柴野、新部、畠山、増田
見どころ：バードウィーク期間の探鳥会です。見沼の主役は夏鳥に変わり、芝川沿いではオオヨシキリやコチドリの声が聞こえることでしょう。キジやオオタカにも期待。陽が出ると暑くなります。調節できる服で。

入間市・さいたま緑の森博物館探鳥会(要予約)

期日：5月15日(日)

詳細は、4月号をご覧ください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月21日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局108号室

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：5月21日(土)～22日(日)

詳細は、4月号をご覧ください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月22日(日)

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。
交通：西武新宿線 本川越8:42発、所沢8:39発に乗車。
解散：正午ころ、稲荷山公園。
担当：長谷部、石光、久保田、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、星、水谷、山口、山本(真)
見どころ：遊歩道が整備され、河原がさっぱり。オオヨシキリやホオジロの声は聞こえるでしょうか。稲荷山公園では、3年続けてキビタキを記録しています。さて今年は。

川越市・伊佐沼 野鳥写真撮影会(要予約)

期日：5月22日(日)

詳細は、3月号をご覧ください。



行事報告

9月20日(日) さいたま市 三室地区

参加：61名 天気：晴

カルガモ キジバト カワウ イソシギ トビ
ハイタカ オオタカ サシバ カワセミ コゲラ
チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブ
トガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨ
ドリ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ
カワラヒワ ホオジロ (24種) (番外：ドバト)
残暑はまだ厳しい時期だが、確実に秋は近づいて
きている。この日もサシバが上空を渡っていた。
他猛禽類が沢山出現。三室では珍しいトビにも出
会えた。カモ類はまだ来ていないが、次回はコガ
モに出会えることを期待したい。(青木正俊)

11月15日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。(青木正俊)

12月6日(日) 北本市 石戸宿

参加：47名 天気：曇後晴

マガモ コガモ カイツブリ キジバト アオサ
ギ バン ハイタカ オオタカ ノスリ カワセ
ミ コゲラ アカゲラ チョウゲンボウ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨ
ドリ ウグイス メジロ ツグミ ジョウビタキ
スズメ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダ
カ アオジ (27種) スタート早々、橋の所でジ
ョウビタキのメスを至近距離でじっくり観察。池
の中央にかぶさった枝に止まっているメスのカワ
セミもこれまたじっくり観察。その後も、梅の木
にカシラダカ。飛翔するノスリ、ハイタカ。桜の
木の天辺のツグミ。ホバリングするチョウゲンボ
ウ。高尾の池の近くでは、樹上のシメとカワラヒ
ワ。12月になったのにまだ温かいせいか鳥の種類
も数も少ないと感じられたが、これらの出現鳥は、
ほぼ全員がしっかり確認出来たので、皆さんも満
足されたのではないかと思います。(吉原俊雄)

12月6日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：50名 天気：晴

オオハクチョウ オカヨシガモ ヨシガモ マガ
モ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガ
モ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ
ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ
ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ
ダイサギ コサギ オオバン ユリカモメ ハイ
タカ オオタカ ノスリ カワセミ チョウゲン
ボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブ
トガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス
メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズ
メ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ ホ
オジロ アオジ (44種) (番外：ドバト) 芝川第
一調節池の一番面白い時期がやってきた。探鳥会
に合わせるかのようにオオハクチョウ2羽が飛来。
上空を優雅に飛んでくれた。一部の人は調節池で
は珍しいホオジロガモも観察。一方、猛禽類・小
鳥類は強風もあってか少なめ。ハヤブサもお気に
入りの鉄塔でジッとしていた。(須崎 聡)

12月12日(土) さいたま市 岩槻文化公園

参加：50名 天気：晴

コジュケイ ヨシガモ ヒドリガモ カルガモ
コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサ
ギ オオバン イカルチドリ イソシギ セグロ
カモメ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲ
ンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス
エナガ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ キ
セキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワ
ラヒワ シメ ホオジロ アオジ (36種) (番外：
ドバト) 水場でキセキレイに出会い、村国池で
は近くにオオタカ若鳥が止まってくれた。しばら
くするとカワセミが登場し、輝く羽の美しさを堪
能する。今回は、従来の釣り堀脇の小道を南下す
るコースを変更し、新設された元荒川右岸の歩道
を川下に下る。途中、石ころのように動かずじっ
としているイカルチドリ2羽や浅瀬にたたずむセ
グロカモメを観察する。帰途にはヨシガモ♂を確
認し、鳥合わせに合わせたように近くの鉄塔にハ
ヤブサが舞い戻ってきてくれた。(長野誠治)

12月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加：34名 天気：小雨後曇

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ
オオタカ コゲラ アカゲラ チョウゲンボウ

モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ (26種) (番外：ガビチョウ) 出発して土手上でホオジロ、ヒヨドリが出てくるものの、少ない感じ。その中でアカゲラ2羽ほどが目の前の枝から枝に飛び移っていた。ほかにも出現するが数羽と少ない鳥数で、姿より声を頼りに数を数えるくらいであった。猛禽類も2種類と鳥種不明が1羽、遠方に飛び去って行った。全体に数が少なかったが、鳥種数が通常近くだったのがせめてもの救いであった。(茂木幸蔵)

12月16日(水) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：47名 天気：晴

キジ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ ミコアイサ カワアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ ノスリ カワセミ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (44種) (番外：ドバト) カモが少なく中の鳥に着いてやっとミコアイサ、カワアイサ、ヨシガモ等が見つかりほっとした。無風のためかカカはあまり飛ばなかったが、枝に止まっているチュウヒやノスリが見られた。冬の小鳥達は少なめだったが、赤いひを含むベニマシコの小群が何度も現れて参加者を楽しませた。(玉井正晴)

12月19日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：49名 天気：快晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ カワウ アオサギ ダイサギ コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ ハクセキレイ ビンズイ ベニマシコ シメ アオジ (33種)

暖冬のためなのか、まだ少し残っている紅葉を眺めながら探鳥を始めた。すぐにアカマツ林の高い枝先に飛び交うカラの混群に出会った。エナガが多く、中にはキクイタダキの姿も見られた。陽だまりを求めて花木園に向かった。高木の枝に6～7羽のツグミがいた。まだ到着したばかりのようだ。梅林では驚いたことに、八重寒紅梅が早くも咲き出していた。ジョウビタキやモズを見たあと、ふれあい広場に降りるとベニマシコの声。すぐに藪に入ってしまったが、姿を確認できた人もいた。疎林地帯ではアカマツの枝や地上にビンズイの姿。山田大沼のカモは10月をピークに数がだいぶ減ってしまった。強く吹きつける北風を避けて中央口の休憩室で鳥合せを行った。(中村豊己)

12月19日(土) 戸田市 彩湖 Young

参加：57名 天気：晴

キジ オカヨシガモ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ミミカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン ユリカモメ セグロカモメ トビ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ オオジュリン (45種) (番外：ドバト、ガビチョウ) 日本野鳥の会東京との共催ではあるが、当会としては初の“若者向け”探鳥会。「東京」側での受付を含めて130名を超える参加者……いつもとは違うエネルギー。野鳥専門誌『BIRDER』の取材で「♪鳥くん」も参加！ ちょっとしたお祭り騒ぎです。あいにくの強風の中、鳥の出の悪さもなんのその。昼食をはさんでの鳥合わせでは45種！ 終了後の“茶話会”で初めての参加者同士も和気あいあいと何もかもが新鮮だったこの企画。今後ともよろしくお願い致します。(石塚敬二郎)

12月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：10名

相原修一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、大塚純子、志村佐治、藤掛保司、吉原早苗、吉原俊雄



● 農林作業を大切に

農地や山林での作業が盛んな季節。フィールドでは、それら様々な作業最優先です。作業用の車が通れなくなるような駐車をしない、邪魔な所に三脚を立てない、畑や細いあぜには踏み込まないでください。ごく当たり前のことを、ごく当たり前にご注意を。

● さいたま市PR動画公開

当会が収録に協力した動画が、YouTubeで公開されました。「さいたま市PR動画」で検索、「HELLO!ユカイなSAITAMACITY」から「第5話見沼たんぼの風景」をクリック。前半約6分で、当会代表海老原美夫が見沼自然公園でのバードウォッチングを案内します。後半は、見沼たんぼで収穫した野菜を給食に取り入れている小学校を紹介。さいたま市出身のロックンローラー・ダイヤモンドユカイさんと若者が、さいたま市の魅力を再発見するシリーズです。

● シンポジウム「壊していいの?いるまの森」

2月28日(日)入間市民活動センターで開催された平和の声・行動ネットワーク入間主催のシンポジウムで、小林みどり、オオタカが生息できる環境について、さいたま市内の観察例をもとに講演しました。

● 埼玉県野鳥チェックリスト2016作成

現在探鳥会などで使用している2013年版が少なくなったので、野鳥記録委員会が作成したリストにより、2016年版を作成しました。

追加5種(シジュウカラガン、カツオドリ、ヘラサギ、ニシセグロカモメ、カラムクドリ)で、合計334種。

● 埼玉県鳥獣保護管理員推薦

従来の「鳥獣保護員」が「鳥獣保護管理員」に名称変更されました。2016年度、当会から

小荷田行男、小林みどり、橋口長和の3名を県に推薦しました。

● 会員の普及活動

2月28日(金)渡良瀬遊水地で開催された新ハイキングクラブ主催「鳥を観る・知る 第17回」で、小林みどり、浅見徹、工藤洋三、藤田敏志が指導。参加者約20名。

3月6日(日)比企郡小川町金勝山で開催された県立小川げんきプラザ主催「ジャムづくりとバードウォッチング」で千島康幸、松下光、青山紘一が指導。参加者31名

● 会員数は

4月1日現在1,748人。

活動と予定

● 2～3月の活動

2月22日(月)さいたま市「見沼たんぼ交流の場」第5回検討会に出席(小林みどり、藤掛保司)。

2月26日(金)武蔵丘陵森林公園地域懇談会里山分科会に出席(小林みどり、藤掛保司)。

3月12日(土)『しらこぼと』4月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、山部直喜、長嶋宏之)。

3月20日(日)役員会(司会:海老原美夫、新年度役員候補、その他)。

● 5月の予定

5月7日(土)編集部会。普及部会。

5月14日(土)6月号校正(午後4時から)。

5月15日(日)役員会(午後4時から)。

5月21日(土)袋づめの会(午後3時から)。

編集後記

3月28日、マイ・フィールドでハヤブサの♀が並んでいた。帰宅して記録を確かめたら、昨年同日の同場所で観察している。とすると今年も繁殖か、とマイ・フィールドから目が離せない。写真撮影が無理な場所であることがうれしい。(山部)

しらこぼと 2016年5月号(第385号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社